

# 2024 年間学習予定表

## 2年生

1年間の学習予定です。

これを参考にして学習計画を立て、学習に励みましょう。  
定期考査の範囲については、必ず事前に確認してください。

愛知県立旭野高等学校

## 2年生シラバス目次

論理国語	-----	1
古典探究 文型	-----	2
古典探究 理型	-----	4
日本史探究 文型	-----	6
世界史探究 文型	-----	8
公共	-----	9
数学ア 文型	-----	10
数学イ 文型	-----	14
数学ア 理型	-----	18
数学イ 理型	-----	22
化学基礎 文型	-----	26
生物基礎 文型	-----	28
物理	-----	29
化学基礎 a	-----	30
化学 a	-----	31
化学基礎 b	-----	32
化学 b	-----	33
生物 理型	-----	34
体育	-----	35
保健	-----	36
音楽 I	-----	37
美術 I	-----	38
英語コミュニケーション II	-----	39
論理・表現 II	-----	41
総合的な探究の時間	-----	43





## 2年生論理国語 年間学習予定（シラバス）

### 1 学習の方法・予習のポイント

- ・意味の分からない語句や曖昧にしかわらない語句については、あらかじめ国語辞典で調べておきましょう。
- ・本文中に出てくる漢字については、繰り返し練習し書けるようにしましょう。
- ・学習のポイントにしたがって、本文をまとめてみましょう。
- ・漢字・語句・文学史は国語の基本です。各自でしっかりと学習して考査に備えましょう。

### 2 学習予定

学期	単元	教材	学習のポイント	考査範囲	副教材	
					新成現代文	漢字文学史
1学期	評論・小説	『いのちは誰のものか』 『晴れた空の下で』	筆者の主張を的確に読み取り、資料の小説の中に具体化されている部分を説明することで理解を深めよう。	中間考査	3～6	第二章 41～52回  上代 P3～8
	評論	『暴力はどこからきたか』	筆者の主張する戦争の構造を理解し、具体例を考え説明することで考えを深め、平和のためにどうすべきか考えをまとめよう。	期末考査	7～10	第一章 25～40回  中古 P9～20
	小説・評論	『山月記』 『変身に伴う 快感と恐れ』	小説を的確に読解した上で、「変身」というテーマについて多面的・多角的に考え、自己の意見をまとめよう。			
夏休み		課題が出されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の内容の理解に努めましょう。</li> <li>・長期間の休みを利用して本を読みましょう。</li> <li>・読書コンクールや小論文のコンクールに積極的に参加しましょう。</li> </ul>	実課考査	11～14 漢字・語句①②	第三章①②、 p182～189 中世 P21～32
2学期	評論	『「である」ことと「する」こと』	近代化をテーマに日本と西洋を比較し、日本の近代化の特徴について理解しよう。	中間考査	15～17	第二章 13～24回  近世 P33～42
	評論・小説	『こころ』 『淋しい人間～「こころ」を通じて』	小説を的確に読解した上で、近代化の特徴である個人の尊厳の概念が及ぼす影響について考えをまとめ、発表しよう。			
	評論	『ロボットは心を持つか』 『そもそも心とは何か』	論旨を読み取った上で様々な資料を用い、AIと人間の関係について両者を比較しつつ考察しよう。	期末考査	18～20	第二章 4～12回 第一章 29～32回 近代前期 P43～52
冬休み		課題が出されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の内容の理解に努めましょう。</li> <li>・休みを利用して本を読みましょう。</li> <li>・3学期に扱う「こころ」を読んでおきましょう。</li> </ul>	実課考査	21～25 漢字・語句③	第四章①②、 p190～201 近代後期 P53～62
3学期	評論	『木を伐る人 / 植える人』	総合的な探究の時間で考えたことを論旨と比較することで、自己の考えを深める。	学年末考査	24～27	第二章 25～40回  近代韻文 P63～73
春休み		課題が出されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生に向けて準備をしましょう。</li> </ul>	実課考査	新教材から	第三章①～④

### 3 評価方法

- ① 定期考査の成績および課題考査の成績に平常点（漢字の小テスト・授業のワークシート・作文等の課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などで評価します）を加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の各観点から行います。

### 4 国語科からのメッセージ

論理国語は、現代に生きる私たちが直面している問題について書かれた文章を読み、生き方、在り方を考えていく教科です。そのためには、論理的な読解力や語句の知識を身につけていくことが必要です。決して感覚で読むのではなく、論理的な思考を働かせてください。また、自らが考えたことを文章に表現していくことも学んでいきます。覚えることよりも、言葉を使って思考することが大切な科目です。その点が他の教科と大きく違っているとさえもいえます。授業中に与えられた質問を考える習慣をつけてください。

## 2年生古典探究（文型）年間学習予定（シラバス）

### 1 学習の方法・予習のポイント

- ・ノートに本文を写し、古語を調べ、自分で口語訳をして授業に臨んでください。また、重要古語は整理しておきましょう。自分で口語訳することで、ポイント（分からない箇所）を発見することが大事です。
- ・文法事項についても、ノートの本文に記入し、常に確認するようにしましょう。
- ・自主学習教材は、定期考査の範囲に合わせて計画的に学習しましょう。問題を解くことに意味があるのではなく、口語訳を自分でし、文法事項を確認することで力がつきます。やり方次第で差がつきます。しっかりと学習しましょう。
- ・漢文の基本は音読です。声を出して繰り返し読むことで、漢文のリズムをつかむことができ、自然と訓読ができるようになります。
- ・本文を書き下し、句法に注意して口語訳をしましょう。自分で口語訳することで、読解力を養うことができます。
- ・句法については、その都度『漢文必携』で確認するようにしましょう。

### 2 学習予定（古文）

学期	単元	教材	学習のポイント	考査範囲	古文アチーブ2 古文単語
1 学 期	説話・物語	『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」 『竹取物語』 「かぐや姫の昇天」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・和歌の修辞技巧を理解する。 ・敬語を押さえる。	中間考査	古文アチーブなし 古文単語第1章 p 38～65
	物語	『大鏡』 「弓争ひ」 「花山天皇の出家」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・歴史物語に描かれたそれぞれの人物像を読みとる。 ・登場人物の心情をその背景とともに把握する。	期末考査	古文アチーブ3～6 古文単語第2章 p 66～105
夏 休 み		問題演習 ・テキストの問題を解くだけでなく、口語訳・文法の確認をしっかりと行いましょう。 ・1年生で習った文法事項を復習し、確実なものにしましょう。 ・古文読解を深めるために、古典常識に習熟しましょう。		実課考査	古文アチーブ11～17 古文単語古典常識 p 342～369
2 学 期	物語	『平家物語』 「忠度の都落ち」 「能登殿の最期」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・平家物語の文体の特徴を知る。音便 和漢混淆文体 ・源平の戦いの後方にある人たちの心情を理解する。	中間考査	古文アチーブ7～10 古文単語第3章 p 108～145
	日記	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」 『和泉式部日記』 「夢よりもはかなき世の中」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・日記文学を通して、歴史上の人物の素顔を知る。 ・修辞技巧に注意して和歌に込められた心情を理解する。 掛詞・縁語の確認 ・敬語を押さえる。	期末考査	古文アチーブ18～23 古文単語第4章 p 148～198
冬 休 み		問題演習 ・敬語法を中心に、文法事項を確認しましょう。 ・助動詞の用法について、再確認しておきましょう。		実課考査	古文アチーブ24、25、確認問題100本ノック 古文単語敬語のまとめ p 327～340
3 学 期	物語	『源氏物語』 「桐壺」 『大和物語』 「姥捨」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・王朝文学の特徴をふまえ、登場人物の心情を通して物語を理解する ・登場人物のやりとりから心情を理解する。 ・和歌に詠まれた心情を理解する。 ・平安時代の歌人の和歌に対する姿勢・思いを学ぶ。	学年末考査	古文アチーブ26～28 古文単語第5章 p 202～255
春 休 み		・3年生に向けての準備です。 ・課題をこなすだけでなく、今まで習ってきたことをしっかりと復習しましょう。 ・特に助動詞・助詞・敬語が不安な人は、もう一度確認しておきましょう。 ・これ以外に3年生の使用教材からも課題が指定されます。		実課考査	古文アチーブ29、30 古文単語全範囲

## 2 学習予定（漢文）

学期	単元	教材	学習のポイント	考查範囲	漢文アチーブ	漢文必携
1 学 期	逸話・故事	「不顧後患」 「推敲」 「嬰逆鱗」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・故事成語の由来を正確に理解し、現代における使い方を 知る。	中間 考查	3～6	P20～23 P32～41
	諸 家 の 思 想	「侵官之害」 「性善」 「混沌」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・孟子、荘子、韓非子の思想を理解する。	期 末 考 査	7～10	P44～59
夏 休 み		問題演習・句法の整理 ・テキストの問題を解き、口語訳・文法の確認をしっかりと行いましょう。 ・漢文理解の基本となる句法を出来るだけ多く暗記しましょう。		実 課 考 査	11～17	P32～59
2 学 期	漢 詩	李白・王維・杜甫 白居易 菅原道真・菅茶山 正岡子規	○繰り返し音読し、漢詩のリズムを味わう。 ・漢詩の種類や決まりについて知る。 ・作者の心情を理解する。	中 間 考 査	18～20	P62～87
	名 家 の 文 章	「雑説」 「黔之驢」 「売油翁」	○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・文章の表現、構成の巧みさを理解する ・古代中国の人の考え方を知る。 ・比喩を理解して作者の主張を把握する。 ・論理的な文章を正しく読解する。 ・話に込められた教訓を理解する。	期 末 考 査	21～23	P90 ～109
冬 休 み		問題演習・句法の整理 ・テキストの問題を解き、口語訳・文法の確認をしっかりと行いましょう。 ・漢文理解の基本となる句法を暗記しましょう。		実 課 考 査	27、28、 確認問題100本 ノック 句形・漢詩 語彙	P62～87
3 学 期	項 羽 と 劉 邦	『史記』 「鴻門之会」 「四面楚歌」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・長文読解の力をつける。 ・それぞれの場면을正確に理解し、登場人物の心理につい て考える。 ・歴史を動かす力は何であるか考える。	学 年 末 考 査	24～26	P110 ～150
春 休 み		・3年生に向けての準備です。 ・課題をしっかりとこなすだけでなく、今まで習ってきたことをしっかりと復習し ましょう。 ・特に句法の確認をしておきましょう。		実 力 考 査	29、30	P90 ～150

## 3 評価方法

- ① 定期検査および実課検査の成績に平常点（文法の小テスト・授業のノート・課題などの内容や提出状況、および学  
習活動への参加の姿勢などで評価します）を加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行います。

## 2年生古典探究（理型）年間学習予定（シラバス）

### 1 学習の方法・予習のポイント

<p>〈古文〉・ノートに本文を写し、古語を調べ、自分で口語訳をして授業に臨んでください。また、重要古語は整理しておきましょう。自分で口語訳することで、ポイント（分からない箇所）を発見することが大事です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文法事項についても、ノートの本文横に記入し、常に確認するようにしましょう。</li> <li>・自主学習教材は、定期考査の範囲に合わせて計画的に学習しましょう。問題を解くことに意味があるのではなく、口語訳を自分でし、文法事項を確認することで力がつきます。やり方次第で差がつきます。しっかりと学習しましょう。</li> </ul> <p>〈漢文〉・漢文の基本は音読です。声を出して繰り返し読むことで、漢文のリズムをつかむことができ、自然と訓読ができるようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を書き下し、句法に注意して口語訳をしましょう。自分で口語訳することで、ポイント（分からない箇所）を発見することが大事です。</li> <li>・句法については、その都度『漢文必携』で確認するようにしましょう。</li> </ul>
--

### 2 学習予定

学期	単元	教材	学習のポイント	考査範囲	古典アチーブ 古文編 古文単語	古典アチーブ 漢文編 漢文必携
1 学 期	逸話	「不顧後患」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・述べられている主張を読み取る。 ・確認する句法…疑問形・感嘆形	中間考査	古典アチーブ 古文編 なし	古典アチーブ 漢文編 3・4
	説話	『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・和歌の修辞技巧を理解する。 ・説話文学の特色を理解する。		古文単語 第1章 P38～65	漢文必携 P20～23 P32～41
	思想 物語 漢詩	「侵官之害」 『大鏡』 「弓争ひ」 漢詩 李白・王維・ 杜甫・白居易	○繰り返し音読し、漢文の言い回しに慣れる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・韓非の政治思想を理解する。 ・確認する句法…二重否定・比較形 ○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・登場人物の行動と心情を読み取る。 ・敬語について理解する。 ○繰り返し音読し、漢詩のリズムを味わう。 ・漢詩の種類や決まりについて知る。 ・作者の心情を理解する。	期末考査	古典アチーブ 古文編 3・4 古文単語 第2章 P66～105	古典アチーブ 漢文編 5・6 漢文必携 P44～59
夏 休 み		問題演習 ・テキストの問題を解くだけでなく、口語訳を行い、文法や句法、重要語句をしっかりと確認しましょう。 ・これまでに学習した文法事項や句法を復習し、確実なものにしましょう。	実課考査	古典アチーブ 古文編 5～8 古文単語 古典常識 P342～369	古典アチーブ 漢文編 7 漢文必携 P32～59	

2 学 期	物語	『大鏡』 「花山天皇の出家」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・登場人物の行動と心情をその背景とともに把握する。 ・助詞・助動詞、敬語について理解を深める。	中 間 考 査	古典アチーブ 古文編 9・10	古典アチーブ 漢文編 8・9
	文章	「雑説」	○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・文章の表現、構成の巧みさを理解する。 ・確認する句法…受身形・疑問形・反語形		古文単語 第3章 P108～145	漢文必携 P62～87
冬 休 み	日記	『蜻蛉日記』 「うつろひたる菊」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・日記文学を通して、歴史上の人物の素顔を知る。 ・夫に対する筆者の思いを読みとる。 ・修辞技巧に注意して和歌に込められた心情を理解する。 掛詞・縁語の確認	実 課 考 査	古典アチーブ 古文編 11・12	古典アチーブ 漢文編 10・11
	問題演習	・口語訳にも挑戦しましょう。 ・助詞・助動詞、敬語法を中心に文法事項を確認しましょう。 ・句法、重要語句について、確認をしておきましょう。	古文単語 第4章 P148～198		漢文必携 P90～P109	
3 学 期	物語	『平家物語』 「能登殿の最期」	○語句の意味、文法事項を確認して正確な口語訳をする。 ・登場人物のやりとりから心情を理解する。 ・平家物語の文体の特徴を知る。 音便 和漢混淆文体	学 年 末 考 査	古典アチーブ 古文編 13・14	古典アチーブ 漢文編 なし
	項 羽 と 劉 邦	『史記』 「鴻門之会」 「四面楚歌」	○繰り返し音読し、漢文の言い回しになれる。 ○句法に注意して書き下し、口語訳する。 ・長文読解の力をつける。 ・それぞれの場面を正確に理解し、登場人物の言動と心理について考える。 ・歴史を動かす力は何であるか考える。 ・確認する句法…使役形・禁止形・疑問形・反語形・抑揚形 感嘆形		古文単語 第5章 P202～255	漢文必携 P110～150
春 休 み	問題演習	・課題をこなすだけでなく、これまでに学習したことをしっかりと復習しましょう。 ・助詞・助動詞、句法を繰り返し見直しましょう。 ・これ以外に3年生の使用教材からも課題が指定されます。	実 力 考 査	古典アチーブ 古文編 15～17	古典アチーブ 漢文編 12・13	
					古文単語 全範囲	漢文必携 P90～150

### 3 評価方法

- ① 定期考査および実課考査の成績に平常点（文法の小テスト・授業のノート・課題などの内容や提出状況、および学習活動への参加の姿勢などで評価します）を加味して評価します。
- ② 評価は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点から行います。

## 令和6年度 2年文型 日本史探究 シラバス

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
日本史探究	2単位	2年文型	詳説日本史 (山川出版社)	新詳日本史、ゼミナール日本史 (ともに浜島出版) 詳説日本史史料集 (実教出版)、詳説日本史整理ノート (山川出版社)

到達目標 【学習指導要領】	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------------------	--

### 第2学年 (2単位)

	学習事項	学習内容及び評価のポイント (学習内容が十分に達成できているか)	評価方法
一 学 期	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解できている。</li> <li>・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。</li> <li>・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。</li> <li>・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。</li> <li>・原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。</li> </ul>	提出物 授業での取り組み  1 学期中間考査 1 学期期末考査
	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。</li> <li>・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。</li> <li>・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。</li> <li>・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。</li> <li>・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。</li> </ul>	
	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。</li> <li>・律令にもとづく国内統治体制について理解する。</li> <li>・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。</li> <li>・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。</li> <li>・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。</li> <li>・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。</li> <li>・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。</li> <li>・東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。</li> </ul>	
			夏季の課題
二 学 期	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</li> <li>・日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。</li> <li>・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</li> <li>・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</li> <li>・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</li> <li>・地方の反乱やその鎮王など、武士の成長過程について、源氏などを例にとりて考察する。</li> </ul>	提出物 授業での取り組み  9月実課考査 2 学期中間考査 2 学期期末考査
	第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</li> <li>・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</li> <li>・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</li> <li>・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</li> </ul>	
	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</li> <li>・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</li> <li>・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</li> <li>・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</li> <li>・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</li> <li>・非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。</li> <li>・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</li> <li>・伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。</li> </ul>	
			冬季の課題

三 学 期	第7章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。</li> <li>・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。</li> <li>・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。</li> <li>・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</li> <li>・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。</li> <li>・庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。</li> <li>・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。</li> </ul>	<p>提出物 授業での取り組み</p> <p>1月実課考査 学年末考査</p>
	1 室町幕府の成立		
	2 幕府の衰退と庶民の台頭		
	3 室町文化		
4 戦国大名の登場			

**【課題・提出物等】**

ゼミナール日本史、レポート、長期休業中のフィールドワーク報告書など

**【年間の学習状況の評価方法】**

定期考査、実課考査、課題・レポート、授業への取り組みなどから総合的に評価する。

## 令和6年度 2年文型 世界史探究 シラバス

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名称等
世界史探究	2単位	2年文型	山川出版「詳説世界史」	浜島書店「最新世界史図説タペストリー」 山川出版「世界史用語集」

到達目標 【学習指導要領】	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------------------	--

### 第2学年（2単位）

月	進度(単元・章・項)	主な学習内容・学習活動	評価方法	主な評価のポイント
一 学 期	世界史へのまなざし	人類の誕生、農耕・牧畜の始まりはどんなことがきっかけか。		世界史的視野で物事を理解できる態度を身につけようとしているか。
	第1章 オリエンと地中海世界	シュメール人から始まるメソポタミア文明・ミイラを作ったエジプト文明について考察し、疑問点を出す。	小テスト プリント提出 課題提出	それぞれの風土に根差した文明・文化の特色を理解しているか。
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	広大な中国で文明がおこり、漫画『キングダム』に描かれているような春秋戦国時代を経て東アジア世界が形成されていく。貨幣や政治制度について考える。	授業での取り組み 1学期中間考査 1学期期末考査	民族や国家の興亡、歴史の大きな流れをタテ・ヨコのつながりで理解しているか。 キーワードを盛り込みながら、簡潔に歴史事項を表現できるか。
			夏季の課題	
二 学 期	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	ギリシアのポリスをアテネの民主政の流れを中心に学習する。現代の民主政との違いについて考える。	小テスト プリント提出 課題提出	ヨーロッパの人々にとって、ギリシア・ローマの歴史・文化は古典であり、現代も脈々と根底に流れているものである。古代の合理的な考え方を理解しているか。また、ローマ帝国末期のキリスト教の国教化が大きな転換点となることを理解しているか。
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の	ローマが共和政から帝政へと変わる歴史を政治面と経済面の双方から考察する。どうしたら広大な領土を安定的に支配することができるか考える。	授業での取り組み 2学期中間考査 2学期期末考査	イスラームの伝播の過程は煩雑だが、興味をもって探究できるか。
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イスラームについて、その始まりと伝播の過程を考察する。多くの民族に広まったこと、宗派の違いなどを理解する。		キーワードを盛り込みながら、簡潔に歴史事項を表現できるか。
			冬季の課題	
三 学 期	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	ヨーロッパの各地域の動きと教皇をトップとした教会の権威の推移を、多面的・多角的に理解する。  中世ヨーロッパはどのような時代だったといえるか。良いところ、良くないところを挙げる。	小テスト プリント提出 課題提出  授業での取り組み  学年末考査	西ヨーロッパの封建社会について、イスラームやビザンツ帝国との関係を絡めながら理解しているか。  中世ヨーロッパ文化に興味・関心を持ち、積極的に探究できるか。  キーワードを盛り込みながら、簡潔に歴史事項を表現できるか。

【課題・提出物等】 授業内小テスト、授業用ノート提出、プリント提出、レポートなど
【年間の学習状況の評価方法】 小テスト・定期考査、実課考査、課題・レポート、授業中の態度、プリントチェックなどから総合的に評価する。

令和6年度 公共(2年) シラバス

教科	科目	単位	学年・類型	教科書名	発行書名
公民	公共	2	2年	詳述公共	実教出版

教材

教科書、資料集、ワークノート(教科書準拠版) など

学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きるための資質・能力を養う。

進捗計画

学期	単元	指導項目	評価規準
一学期	A 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る	・社会を作る私たち(教科書p.6～p.19)	<p><b>評価規準</b> ※()内は評定算出の際の比重 ※全ての学期について、以下の3観点を基に評価を行います。</p> <p><b>1 知識・技能(40%)</b> 現代の諸課題を考察するための概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、情報を適切に調べまとめている。</p> <p><b>【評価方法】</b> 定期考査</p> <p><b>【学習方法】</b> ① 授業の中で疑問点を全て解消する。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ 日ごろから幅広いニュース等に触れ、授業で習ったこととの関連を考える。</p>
中間	(2) 公共的な空間における人間としての在り方	・人間としてよく生きる(教科書p.20～49)	
期末			
二学期	(3) 公共的な空間における基本原理	・民主社会の倫理、民主国家における基本原理(教科書p.50～72)	<p><b>2 思考・判断(40%)</b> 現代の諸課題の解決に向けて、概念や理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、議論したりしている。</p> <p><b>【評価方法】</b> 定期考査</p> <p><b>【学習方法】</b> ① 授業の中で積極的に発言、傾聴、議論を行う。 ② ワークノートを中心に、問題演習を繰り返す。 ③ ある主張に対し、根拠はあるのか、根拠は適切か、などを考える習慣をつける。</p>
中間	B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・日本国憲法の基本的性格(教科書p.74～107)  ・日本の政治機構と政治参加(教科書p.108～145)	
期末		・現代の経済社会(教科書p.146～183)  ・経済活動のあり方と国民福祉(教科書p.184～229)	
三学期	C 持続可能な社会づくり	・国際政治の動向と課題(教科書p.230～257)  ・国際経済の動向と課題(教科書p.258～289)  ・探究学習	<p><b>3 主体的に学習に取り組む態度(20%)</b> よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p> <p><b>【評価方法】</b> 授業に対する取り組み 課題に対する取り組み</p> <p><b>【学習方法】</b> 試験や受験を意識しすぎない。「ちょっと気になる」「これってなんだ?」という小さな知的好奇心を大切に育てる。</p>

# 令和6年度 第2学年文型 数学ア シラバス

## 数学ア

### ○1学期

月	単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	<b>数学Ⅱ</b> 第1章 式と証明・方程式 第2節 式と証明 3 不等式の証明 第3節 複素数と2次方程式 1 複素数 2 2次方程式 3 2次方程式の解と係数の関係 第4節 高次方程式 1 剰余の定理と因数定理 2 高次方程式	①不等式の証明を適切に記述することができる。 ②相加平均と相乗平均を用いて不等式を証明することができる。 ③複素数の四則演算の仕方を身に付けている。 ④2次方程式の解の意味を理解し、解の求め方についての基礎的な知識を身に付けている。	①不等式の証明を通して、式を論理的に見ることができる。 ②数学Ⅰで実数まで拡張した数について、複素数までの拡張を考察することができ、その四則演算についても考えることができる。 ③2次方程式の解と係数の関係を用いて、ある2数を解にもつ2次方程式を考察することができる。	①事象を式と証明、方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
5				
6				
	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点の座標 2 平面上の点の座標 3 直線の方程式	①図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したたり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができている。	①座標平面の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察することができる。	①事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたたりしている。

○2学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	4 2直線の関係 第2節 円と直線 1 円の方程式 2 円と直線	③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	②式を用いて、与えられた条件を満たす方程式を求め、それがどのような図形になるかを考察することができる。	②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
9	第3節 軌跡と領域 1 軌跡 2 不等式の表す領域			
	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 1 指数が0や負の整数の場合	①指数関数・対数関数の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができる。	①指数関数・対数関数についてそれぞれのグラフの性質を理解し、数の大小関係を判定したり指数・対数を含む方程式や不等式について考察することができる。	①数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
10	2 指数の拡張 3 指数関数 第2節 対数と対数関数	③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	②関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察することができる。	
11	1 対数 2 対数関数 3 常用対数			
	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 1 平均変化率と微分係数	①微分・積分の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。	①微分係数や導関数を利用して、関数値の増減、極大・極小を調べ関数の性質を考察することができる。	①数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。

○3学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12	2 導関数	②事象を数学化したり、 数学的に解釈したりする 技能を身に付けることが できている。 ③事象を数学的に処理し たり、表現したりするこ とに関する技能を身に付 けている。	②微分の逆演算として 原始関数、不定積分を 考え、定積分を用いて 面積を求めるなど、グ ラフと関連付けて考察 することができる。 ③問題解決の過程や結 果を振り返って統合 的・発展的に考察する ことができる。	②問題解決の過程を振り返 って考察を深めたり、評 価・改善したりしようと している。
	3 接線の方程式			
	第2節 導関数の応用			
	1 関数の値の変化			
1	2 方程式・不等式への応用			
	第3節 積分			
	1 不定積分			
2	2 定積分			
3	3 面積と定積分			

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

# 令和6年度 第2学年文型 数学Ⅰ シラバス

## 数学Ⅰ

○1学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	<b>数学B</b> 第1章 数列 第1節 等差数列・ 等比数列 1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列	・数列についての概念や原理、法則を体系的に理解することができる。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	・数列の構造などに着目し、数列の一般項や和を求める方法を多面的に考察することができる。 ・数列の一般項や和について数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察することができる。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。
5	第2節 いろいろな数列 1 和の記号 $\Sigma$ 2 累乗の和 3 階差数列 4 数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和	・いろいろな条件から、等差数列・等比数列の一般項や和を求めることができる。 ・様々な漸化式を適切に変形し、その数列の一般項を求めることができる。	・事象を漸化式に帰着して解決することを考察できる。	
6	第3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式			

○2 学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	2 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列の規則を見つけ、その一般項や和を求めたり、一般項を推定し、それを数学的帰納法を利用して証明したりすることができる。</li> <li>・統計的な推測に基づいての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・数学と社会生活との関わりについて認識を深めている。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> <li>・確率分布や二項分布について、その傾向を平均、分散、標準偏差などを用いて適切に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を数列や数学的帰納法を利用して考察し、その規則性を見つけたりすることができる。</li> <li>・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察することができる。</li> <li>・確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の性質や傾向を判断したり標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。</li> <li>・日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の結果や過程を振り返って考察したりできる。</li> <li>・連続的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。</li> </ul>
9	第2章 確率分布と統計的な推測			
	第1節 確率分布			
	1 確率変数と確率分布			
	2 確率変数の平均、分散、標準偏差			
10	3 確率変数 $ax+b$ の平均、分散、標準偏差			
	4 確率変数の和・積の平均と和の分散			
11	5 二項分布			
	第2節 正規分布			
	1 連続的な確率変数とその分散			
	2 正規分布			
	3 二項分布の正規分布による近似			

○3学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12	第3節 統計的な推測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標本調査を利用して、標本平均の様子を調べ、母平均などを推定したり、仮説検定をすることができる。</li> <li>・日常生活や社会の問題を数学的に処理できるようにすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標本調査を利用して、統計的な事象を考察することができる。</li> <li>・日常生活や社会の問題を数学的に処理した結果から、もとの問題を判断、評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。</li> </ul>
1	1 母集団と標本			
2	2 推定			
3	3 仮説検定			
3	第3章 数学と社会生活			
	1 日常生活や社会の事象の数学化			
	2 部屋割り論法			

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

# 令和6年度 第2学年理型 数学ア シラバス

## 数学ア

### ○1学期

月	単 元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	<b>数学Ⅱ</b> 第1章 式と証明・方程式 第2節 式と証明 3 不等式の証明 第3節 複素数と2次方程式 1 複素数 2 2次方程式 3 2次方程式の解と係数の関係	①不等式の証明を適切に記述することができる。 ②相加平均と相乗平均を用いて不等式を証明することができる。 ③複素数の四則演算の仕方を身に付けている。 ④2次方程式の解の意味を理解し、解の求め方についての基礎的な知識を身に付けている。	①不等式の証明を通して、式を論理的に見ることができる。 ②数学Ⅰで実数まで拡張した数について、複素数までの拡張を考察することができる。その四則演算についても考えることができる。 ③2次方程式の解と係数の関係を用いて、ある2数を解にもつ2次方程式を考察することができる。	①事象を式と証明、方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
5	第4節 高次方程式 1 剰余の定理と因数定理 2 高次方程式			
	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1 直線上の点の座標 2 平面上の点の座標	①図形と方程式の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができる。	①座標平面の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察することができる。 ②式を用いて、与えられた条件を満たす方程式を求め、それがどのような図形になるかを考察することができる。	①事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
6	3 直線の方程式 4 2直線の関係 第2節 円と直線 1 円の方程式 2 円と直線 第3節 軌跡と領域 1 軌跡	③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。		

○2学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	2 不等式の表す領域			
9	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 1 指数が0や負の整数の場合 2 指数の拡張 3 指数関数 第2節 対数と対数関数 1 対数 2 対数関数 3 常用対数	①指数関数・対数関数の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができる。 ③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	①指数関数・対数関数についてそれぞれのグラフの性質を理解し、数の大小関係を判定したり指数・対数を含む方程式や不等式について考察することができる。 ②関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	①数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
10	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 接線の方程式 第2節 導関数の応用 1 関数の値の変化 2 方程式・不等式への応用	①微分・積分の考えについての基本的な概念や原理法則を体系的に理解することができる。 ②事象を数学化したり、数学的に解釈したりする技能を身に付けることができる。 ③事象を数学的に処理したり、表現したりすることに関する技能を身に付けている。	①微分係数や導関数を利用して、関数の値の増減、極大・極小を調べ関数の性質を考察することができる。 ②微分の逆演算として原始関数、不定積分を考え、定積分を用いて面積を求めるなど、グラフと関連付けて考察することができる。	①数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断することができる。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
11	第3節 積分 1 不定積分 2 定積分 3 面積と定積分		③問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12	<b>数学Ⅲ</b> 第1章 数列の極限 第1節 無限数列 1 無限数列の極限 2 無限等比数列の極限 第2節 無限級数 1 無限級数の収束・発散 2 無限等比級数の収束・発散	①数列の極限について理解し、簡単な数列の極限を求めることができる。 ②無限級数の収束・発散について理解し、無限等比級数など簡単な無限級数の和を求めることができる。	①式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりして極限を求める方法を考察することができる。 ②数列や関数の値の極限に着目し、事象を数学的に捉え、問題解決の過程や結果を振り返って考察することができる。	・事象を微分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
1	3 いろいろな無限級数 第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 第2節 関数の極限と連続性 1 関数の極限	①簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ②逆関数や合成関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができる。	①すでに学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。	
2	2 いろいろな関数の極限 3 関数の連続性 4 連続関数の性質 第3章 微分法 第1節 微分と導関数 1 微分可能と連続 2 微分と導関数 3 合成関数と逆関数の微分法 第2節 いろいろな関数の導関数	③関数の値の極限について理解している。 ①微分可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。 ②合成関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。	①導関数の定義に基づき、三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を考察することができる。 ②関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や第二次導関数の関係について考察することができる。	
3	1 三角関数の導関数 2 対数関数・指数関数の導関数 3 方程式 $F(x, y) = 0$ と微分 4 高次導関数	③三角関数、指数関数、対数関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。		

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

# 令和6年度 第2学年理型 数学Ⅰ シラバス

## 数学Ⅰ

○1学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	<b>数学B</b> 第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 1 数列とその項 2 等差数列 3 等比数列	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列についての概念や原理、法則を体系的に理解することができる。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列の構造などに着目し、数列の一般項や和を求める方法を多面的に考察することができる。</li> <li>・数列の一般項や和について数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察することができる。</li> <li>・事象を数列や数学的帰納法を利用して考察し、その規則性を見つけたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。</li> </ul>
5	第2節 いろいろな数列 1 和の記号 $\Sigma$ 2 累乗の和 3 階差数列 4 数列の和と一般項 5 いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな条件から、等差数列・等比数列の一般項や和を求めることができる。</li> <li>・様々な漸化式を適切に変形し、その数列の一般項を求めることができる。</li> <li>・数列の規則を見つけ、その一般項や和を求めたり、一般項を推定し、それを数学的帰納法を利用して証明したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象を漸化式に帰着して解決することを考察できる。</li> </ul>	
6	第3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 2 数学的帰納法			

○2学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	第2章 確率分布と統計的な推測 第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の平均、分散、標準偏差 3 確率変数 $ax+b$ の平均、分散、標準偏差	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計的な推測に基づいての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> <li>・確率分布や二項分布について、その傾向を平均、分散、標準偏差などを用いて適切に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察することができる。</li> <li>・日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の結果や過程を振り返って考察したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。</li> <li>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。</li> </ul>
9	4 確率変数の和・積の平均と和の分散 5 二項分布			
10	<b>数学C</b> 第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 1 平面上のベクトル 2 ベクトルの和・差・実数倍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面ベクトルについての概念や原理・法則を体系的に理解することができる。</li> <li>・平面ベクトルにおける事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面ベクトルの構造などに着目し、ベクトルを利用して図形の性質や定理を多面的に考察することができる。</li> <li>・平面ベクトルを用いて図形に関する問題を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面ベクトルにおいて数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。</li> <li>・平面ベクトルにおいて問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。</li> </ul>
11	3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 1 位置ベクトル 2 位置ベクトルと図形			

○3学期

月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
12	3 ベクトル方程式 第3節 空間のベクトル	・空間ベクトルについての概念や原理・法則を体系的に理解することができる。	・空間ベクトルの構造などに着目し、ベクトルを利用して図形の性質や定理を多面的に考察することができる。	・空間ベクトルにおいて数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度で、粘り強く柔軟に考え数学的概念に基づいて判断することができる。
1	1 空間の点の座標 2 空間のベクトル 3 空間のベクトルの内積	・空間ベクトルにおける事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	・空間ベクトルを用いて図形に関する問題を数学的に考察し、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・発展的に考察することができる。	・空間ベクトルにおいて問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりすることができる。
2	4 位置ベクトル			

※評価の方法については、

「知識・技能」「思考・判断・表現」については、定期考査を主とし、実課考査等を加味して評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、課題提出の状況を主とし、定期考査や授業に取り組む意欲を加味して評価する。

## 2年生文型 化学基礎 シラバス

教科	理科	学年	2	教科書（発行者）	高等学校 化学基礎(第一学習社)
----	----	----	---	----------	------------------

科目の 目標	<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
-----------	---

単元及び学習内容	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法	実施 予定 時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成 ①物質の成分	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	4月
②物質の構成元素	<ul style="list-style-type: none"> <li>混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的な方法を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	4月 ～ 5月
③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係を的確に表現することができる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	5月
第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。</li> <li>原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。</li> <li>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオンの表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	6月
第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。</li> <li>電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。</li> <li>共有結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>金属結合や金属結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。</li> <li>分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。</li> <li>観察・実験を通して、分子の極性と分子からなる物質の性質の関係を考察し、表現できる。</li> <li>金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。</li> <li>物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。</li> <li>物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	6月 ～ 7月
第2章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。</li> <li>物質質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質質量と質量、気体の体積との関係も理解する。</li> <li>物質質量を介して、物質の質量や気体の体積を相互に変換できる。</li> <li>水溶液の濃度を、モル濃度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> <li>実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>観察</li> <li>課題</li> <li>考査</li> </ul>	7月 ～ 9月

	を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質量を計算によって求めることができる。	ことができる。			
④化学変化と化学反応式	・化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式を作成することができる。	・化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	9月 ～ 10月
⑤化学反応の量的関係	・物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 ・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。 ・実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。	・化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	10月
⑥化学変化における諸法則	・化学変化における諸法則を理解し、知識を身に付けている。	・化学変化における諸法則から、化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。	・化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	11月
第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。	・酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。	・酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	12月
③中和と塩 ④中和滴定	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。 ・中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。 ・中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。	・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる	・酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	1月
第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係	・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。	・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。 ・観察、実験を通して、酸化・還元反応の定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察できる。	・燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	2月
④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解	・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。	・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。 ・観察、実験を通して、酸化・還元反応の定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察できる。	・燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。	・授業プリント ・観察 ・課題 ・考査	3月

## 2年生文型 生物基礎 シラバス

教科	理科	単位数	2	教科書（発行者）	高等学校 生物基礎（数研出版）
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

単元及び学習内容	観点別評価規準			評価方法	実施予定時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
【高等学校 生物基礎】 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 二次遷移が一次遷移に比べて速く進行する理由を考え、説明することができる。	植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題	4月
第2節 植生の分布とバイオーム	世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 日本に分布するバイオームについて理解している。	地球の気温が上昇すると、バイオームの分布がどのように変化するかを推測することができる。 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。	植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題	5月
第3節 生態系と生物の多様性	生態系がどのように構成されているのかを理解している。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。	生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。	生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題	6月
第4節 生態系のバランスと保全	生態系がもつ復元力について理解している。 人間活動が生態系に及ぼす影響について知り、生態系の保全の重要性について理解している。	生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。	生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題 ・定期考査	
【つかむ生物基礎】 第1章 生物の特徴 (演習による復習)	生物の特徴について、生物の共通性と多様性・生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 生命活動にはエネルギーが必要であり、細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解している。 ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解している。 呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解している。 酵素の触媒作用と基質特異性について知り、体内の化学反応が酵素のはたらきによって進行していることを理解している。	生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を科学的に考察し、表現している。 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら、菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。	生物の特徴に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題 ・実践考査	7月 ～ 9月
第2章 遺伝子とのはたらき (演習による復習)	DNAの構造および塩基の相補性、またDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解している。 DNAの抽出を行い、生物がDNAをもつことを確かめる技能を身に付けている。 DNAが、細胞周期の進行に伴って半保存的に正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解している。 タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解している。 個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解している。	塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を説明できる。 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることを説明できる。 細胞当たりのDNA量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件下で細胞周期の各期の長さを推定できることを説明できる。 コドンが塩基3個の配列で20個のアミノ酸を指定している理由を説明できる。	遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 積極的に実験操作に関わり、自らDNAの存在を明らかにしようとしている。 遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・課題 ・定期考査	10月 ～ 11月
第3章 ヒトの体内環境の維持 (演習による復習)	体内での情報伝達、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解している。 ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解している。 血液凝固のはたらきについて理解している。 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらき細胞の役割を理解している。 免疫記憶のしくみや、免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気、免疫のしくみを利用した医療について理解している。	チロキシンの例に、フィードバックがはたらかなくなった場合、どのようなことが起こるかを説明できる。 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目し、説明することができる。 食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから、血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係を説明できる。	体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題 ・定期考査	12月 ～ 1月
第4章 生物の多様性と生態系 (演習による復習)	いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 日本に分布するバイオームについて理解している。 生態系がどのように構成されているのかを理解している。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 生態系がもつ復元力について理解している。 人間活動が生態系に及ぼす影響について知り、生態系の保全の重要性について理解している。	遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について説明できる。 二次遷移が一次遷移に比べて速く進行する理由を説明することができる。 地球の気温が上昇すると、バイオームの分布がどのように変化するかを説明できる。 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを説明できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を説明できる。 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を説明できる。	植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	授業プリント ・観察 ・課題 ・定期考査	2月 ～ 3月

# 令和6年度 2年生 物理 シラバス

教科	理科	学年	2	教科書（発行者）	高等学校 物理（第一学習社）
----	----	----	---	----------	----------------

科目の目標	<p>中学校理科及び「物理基礎」との関連を図りながら、物理的な事象・現象を更に深く取り扱い、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理学の基本的な概念や原理、法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</li> <li>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</li> <li>・物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</li> </ul>
-------	--

計画時に記入する事項（P：計画） ※前年度の申し送り事項を踏まえて					
単元及び学習内容	観点別評価規準			評価の観点及び評価方法	実施予定時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
<b>第1章 運動とエネルギー</b> <b>第1節 平面運動と放物運動</b> ①平面運動 ②放物運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変位や速度、加速度などについての基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>・速度の合成・分解や相対速度に関する現象を観察し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>・水平投射、斜方投射の運動の特徴を踏まえ、運動のようすを表す式を導くことができる。</li> <li>・アルミニウム筒のカップを落下させたときのように、空気抵抗の大きさを突感し、終端速度と質量との関係を探ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変位や速度、加速度の違いを理解し、それぞれの関係を表す式で表すことができる。</li> <li>・水平投射、斜方投射された物体の速度を分解して、それぞれの運動の特徴を説明することができる。</li> <li>・空気抵抗を受けて落下する物体について、運動方程式から終端速度と質量との関係を探ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面運動での位置や変位、速度、加速度などを表すベクトルについて、「物理基礎」で学習したベクトルの内容と関連させながら意図的に理解しようとする。</li> <li>・「物理基礎」で学習した等速直線運動や落下運動の式をもとに、水平投射と斜方投射について、定量的に考えようとする。</li> <li>・アルミニウム筒のカップが落下するようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	4月
<b>第2節 剛体のつりあい</b> ①剛体にはたらく力とその合力 ②剛体の重心とつりあい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バットのひねりあいを通して、力のモーメントの大きさは、力の大きさとうでの長さに関係することを理解する。</li> <li>・力が剛体におよぼすはたらきを考え、力のモーメントを用いて表すことができる。</li> <li>・平行でない2力、平行な2力の違いを理解し、それぞれ適切に力の合成を行うことができる。</li> <li>・剛体がつりあうときの力、力のモーメントの関係をそれぞれ確認し、剛体の重心を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばねばかりとおもりを用いた実験から、剛体がつりあう条件を探ることができる。</li> <li>・剛体がつりあう条件について、式を用いて考えることができる。</li> <li>・力のつりあいを活用して、さまざまな形状の剛体の重心を求めようとする。</li> <li>・物体を傾けたときに転倒する条件について、力のモーメントのつりあいを調べることもできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剛体がつりあいの状態にあるときの条件を予想し、主体的に実験に取り組んでいる。</li> <li>・質点と剛体の違いを踏まえ、剛体にはたらく力のはたらきについて意図的に考察しようとする。</li> <li>・重心を表す式を利用して、さまざまな形状の剛体の重心の位置を調べようとする。</li> <li>・日常での経験と照らし合わせて力のモーメントを考え、物理的に理解しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	5月
<b>第3節 運動量の保存</b> ①運動量と力積 ②運動量保存の法則 ③反発係数 探究1 反発係数の測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動量と力積の物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>・F-tグラフから力積、力、衝突時間の関係を導くことができる。</li> <li>・運動量保存の法則と反発係数の式を用いて、さまざまな衝突における速度や運動量を計算することができる。</li> <li>・反発係数の値に応じて、衝突による力学的エネルギーの変化を計算することができる。</li> <li>・テニスのボールやピンポン球などを用いて、はね上がった高さや測定することで、床との間の反発係数を求めようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動量がベクトルであることを理解し、運動量の変化と力積との関係について説明することができる。</li> <li>・F-tグラフから物体が受ける力積の大きさを、平均の力を的確に読み取ることもできる。</li> <li>・作用・反作用の法則を用いて、物体が衝突や分裂をしたときの運動量保存の法則を考察することができる。</li> <li>・連結した2台の台車を分裂させたときの運動のようすから、運動量が保存されることを考察することができる。</li> <li>・反発係数を理解し、衝突における力学的エネルギーの変化を考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動量の意味について、キャッチボールやボウリングなどの身近な例をもとに理解しようとする。</li> <li>・運動量の変化と力積との関係を用いて、さまざまな条件における衝突について、運動量保存の法則を意図的に導出しようとする。</li> <li>・連結した2台の台車を分裂させたときの運動の様子から、運動量が保存されることを考察しようとする。</li> <li>・ボールが跳ね返るときのように関心をもち、その現象を物理的に考えようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	6月
<b>第4節 円運動と単振動</b> 探究2 等速円運動の角速度 ①円運動 ②慣性力と遠心力 ③単振動 ④万有引力による運動 探究3 天体からの脱出速度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力などの定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。</li> <li>・観測者が非慣性系にあるとき、慣性力のはたらきを理解し、その大きさを求めることができる。</li> <li>・単振動する物体にはたらく力を把握し、復元力の式を求めようとする。</li> <li>・振り子の周期を測定し、その値が振り子の長さだけで決まることを導くことができる。</li> <li>・人工衛星などの物体の円運動について運動方程式を立て、各物理量を計算できることができる。</li> <li>・万有引力による位置エネルギーを求め、物体の力学的エネルギーを求めようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等速円運動をさせたときの水滴の飛び散る向きから、円運動における速度の向きを考察することができる。</li> <li>・向心力の意味を理解し、等速円運動する物体にはたらく力の立場に注目して考察することができる。</li> <li>・観測者の立場によって生じる、運動する物体にはたらく力の違いを説明することができる。</li> <li>・等速円運動と比較することによって、単振動の変位や速度などの式を導くことができる。</li> <li>・単振動する物体のようすを、グラフを用いて説明することができる。</li> <li>・ケプラーの法則を用いて、万有引力の法則を導いた過程について理解し、重力との関係を式で表すことができる。</li> <li>・万有引力がする仕事との関係をもとに、万有引力による位置エネルギーの式を導くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角速度、周期、回転数などの関係式を、自ら導いて導出しようとする。</li> <li>・等速円運動をしている物体の、向心力と角速度との関係を主体的に調べようとする。</li> <li>・遠心力などの慣性力について、身近な例と結びつけて意図的に考えようとする。</li> <li>・単振動における変位、速度などの式を意図的に導出しようとする。</li> <li>・ケプラーの法則、万有引力の法則について学習し、万有引力と重力の関係から自ら導いて考えようとする。</li> <li>・万有引力を受けて運動する物体の力学的エネルギーについて、意図的に考えようとする。</li> <li>・計算機を用いた、ケプラーの第3法則の確認実験に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	7・9月
<b>第5節 気体の性質と分子の運動</b> ①気体の法則 ②気体の分子運動 ③気体の内部エネルギーと仕事 探究4 熱機関の製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・注射器と台はかりを用いて、気体の圧力と体積の関係を探る。ボイルの法則が成り立つことを理解する。</li> <li>・ボイルの法則、シャルルの法則を用いて、ボイル・シャルルの法則を導くことができる。</li> <li>・気体に関する法則や気体の状態方程式を用いて、計算することができる。</li> <li>・分子の運動をもとにして、気体の圧力を導出する。</li> <li>・水を入れた小型ボットを激しく振って水温と上昇させると、気体の内部エネルギーと温度の関係を調べようとする。</li> <li>・気体の状態変化に熱力学の第1法則を適用し、エネルギーの出入りを考察することができる。</li> <li>・熱機関の熱効率を計算して求めようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の圧力が生じる原因を把握し、気体に関する各法則を考察することができる。</li> <li>・気体の状態方程式を用いて、さまざまな条件における気体の状態を考察することができる。</li> <li>・運動量と力積の関係を用いて、気体分子の運動をもとに、気体の圧力を導くことができる。</li> <li>・気体の状態変化について、p-Vグラフから読み取ることもできる。</li> <li>・気体の状態変化について、その変化の違いを熱力学の第1法則を用いて説明することができる。</li> <li>・熱力学の第1法則や、気体の状態方程式を用いて、定積モル比熱や定圧モル比熱を考察することができる。</li> <li>・熱機関のしくみを理解し、熱効率を考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイル・シャルルの法則を利用して、気体の状態方程式を導出する過程を理解しようとする。</li> <li>・日常での経験と照らし合わせて気体の圧力と体積、温度の関係を考察し、物理的に理解しようとする。</li> <li>・気体の分子運動と圧力との間にあるような関係があるかを予想し、主体的に導出しようとする。</li> <li>・圧縮空気の原理について、気体の状態変化におけるエネルギーの出入りと結びつけ、意図的に考察しようとする。</li> <li>・気体の状態変化での熱効率の算出に意図的に取り組む。</li> <li>・熱機関の製作の探究などに主体的に取り組む、熱効率を上げる方法を考えようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	10月
<b>第II章 波動</b> <b>第1節 波の性質</b> ①正弦波 ②波の伝わり方 探究5 水面波の干渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・位相が表すものを理解し、正弦波を式で表すことができる。</li> <li>・重なりあった波の作用などを通して、定常波ができる条件を理解している。</li> <li>・水面波の干渉の条件について、式を用いて理解する。</li> <li>・水波投影装置を用いて、平面波の反射、屈折のようすを観察し、反射の法則、屈折の法則を定性的に調べることができる。</li> <li>・波の回折は、すき間の大きさや波長によって違いが生じることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(6) 正弦波の波形と波の式を結びつけて考察することができる。</li> <li>(7) y-tグラフ、y-xグラフから、振幅や周期、波長などの物理量を読み取ることもできる。</li> <li>(8) y-xグラフやy-tグラフの間違いを理解し、一方のグラフからもう一方のグラフを描くことができる。</li> <li>(9) ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射や屈折を考え、説明することができる。</li> <li>(10) 平面波の回折のしくみを考え、大きく回折する条件について説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(11) 「物理基礎」で学習した内容をもとに、正弦波の式を意図的に導出しようとする。</li> <li>(12) 身のまわりの波に関する現象に関心をもち、物理学的な観点から自ら導いて考察しようとする。</li> <li>(13) ホイヘンスの原理を用いて、平面波の反射・屈折における法則性を考えようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	11月
<b>第2節 音波</b> ①音の伝わり方 クイック管による音速の測定 ②ドップラー効果 探究6	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1節で学習した反射の法則や屈折の法則、波の干渉条件などを、音波に適用して理解する。</li> <li>(2) 低周波発振器を利用して、音波が干渉するようすを観察することができる。</li> <li>(3) 音源や観測者が動く場合の音波の波長や振動数の変化について、式を用いて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(4) 音が波であることを踏まえ、反射や屈折、回折などの音波の性質を考察することができる。</li> <li>(5) クイック管を用いた探究などを通して、干渉のようすから音速および音波の波長を測定することができる。</li> <li>(6) 音波の伝わる速さが音源の運動に関係しないことから、ドップラー効果によって変化する波長や振動数を導出することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(7) 音が伝わるようすに関心をもち、音波の反射・屈折・回折・干渉について考えようとする。</li> <li>(8) クイック管を用いた探究など、積極的に実験活動に取り組んでいる。</li> <li>(9) 小型の防音ブースをキャッチボールして、音の高さが変化することを積極的に確認しようとする。</li> <li>(10) 身近な現象と結びつけてドップラー効果を理解し、波長や振動数の変化を物理的にとらえようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	12月
<b>第3節 光波</b> ①光の性質 ②レンズと鏡 ③光の回折と干渉 探究7 ヤングの実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 光が波の一種であり、波長の大きさなどによって分類されることを知る。</li> <li>(2) 光の速さを把握し、反射の法則、屈折の法則の式を理解する。</li> <li>(3) 光の分散、散乱、偏光など、波としての光の性質を理解する。</li> <li>(4) 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡のそれぞれの性質を知る。</li> <li>(5) レンズの式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的な特徴を理解する。</li> <li>(6) 球面鏡の式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、球面鏡の一般的な特徴を理解する。</li> <li>(7) ヤングの実験や回折格子による光の干渉など、さまざまな光の干渉条件について式を適用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(8) フィゾーの実験の原理を理解し、光速の導出方法を説明することができる。</li> <li>(9) 光が波であることを踏まえ、光の反射・屈折などの性質を考察できる。</li> <li>(10) 直方体のガラスと針を利用して、ガラスの屈折率を測定することができる。</li> <li>(11) 光の波長と屈折率の関係を理解し、光の分散、散乱などの性質を考察できる。</li> <li>(12) 凸レンズや凹レンズ、凸面鏡や凹面鏡の基本的な性質を学習し、光の進み方、像のできる条件などを説明できる。</li> <li>(13) ヤングの実験、回折格子による光の干渉を学習し、薄膜、くさび形空気層などによる光の干渉条件を導くことができる。</li> <li>(14) レーザー・ポンタと二重スリットを用いた光の干渉に関する探究などを通して、レーザー光の波長と干渉縞の間隔との関係を考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(15) 光について関心をもち、身のまわりの事象や現象と結びつけ、波としてどのような性質をもつのかを理解しようとする。</li> <li>(16) 虹の見えるしくみや、青空、夕陽の見える方について関心をもち、光と色の関係を考えようとする。</li> <li>(17) レンズを通してもの見え方に興味をもち、物理的にとらえようとする。</li> <li>(18) 光の干渉を利用して、光の波長を求めようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 定期審査 課題提出	1・3月

## 化学基礎a 年間指導計画(シラバス)

	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法	実施 予定 時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
序章 化学と人間生活  第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 ①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学が物質やその変化を対象とする学問であることを理解している。</li> <li>物質の性質を調べる活動を通して、科学的に探究する方法を身に付けている。</li> <li>物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。</li> <li>混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的な方法を身に付けている。</li> <li>粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の性質を調べる活動において、科学的に探究する方法を提案したり、実験結果を科学的に判断したりすることができる。</li> <li>観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。</li> <li>粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係を的確に表現することができる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会を支える身近な物質に注目し、科学に対する興味・関心を高め、意欲的に取り組もうとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	4 月 ～ 5 月 中 旬
第2節 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。</li> <li>原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。</li> <li>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオンの表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	5 月 中 旬 ～ 6 月 上 旬
第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。</li> <li>電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。</li> <li>共有結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>金属結合や金属結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。</li> <li>分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。</li> <li>観察・実験を通して、分子の極性と分子からなる物質の性質の関係を考察し、表現できる。</li> <li>金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。</li> <li>物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。</li> <li>物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。</li> <li>物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	6 月
第2章 物質の変化 第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。</li> <li>水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。</li> <li>中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。</li> <li>中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。</li> <li>中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。</li> <li>酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	7 月 ～ 1 0 月 上 旬

## 化学a 年間指導計画(シラバス)

	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法	実施 予定 時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
<b>第I章 物質の状態</b> 第1節 物質の状態変化 ①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成粒子の熱運動と物質の三態変化を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・物質の融点・沸点が分子間力や化学結合の種類と関係し、粒子間に働く力が大きいほど高くなることを理解している。</li> <li>・ファンデルワールスカや水素結合について理解している。</li> <li>・平衡状態の概念を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・沸騰と飽和蒸気圧との関係を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の圧力を、分子の熱運動と関連づけて考察している。</li> <li>・気液平衡における構成粒子の挙動を平衡状態の概念を踏まえて説明している。</li> <li>・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の状態変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	10月中旬 ～ 10月下旬
<b>第2節 気体の性質</b> ①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の体積、温度、圧力の間に存在する関係を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・実在気体と理想気体についてそれぞれ理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・混合気体の全圧と分圧の関係について理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから読み取れる気体の性質を一般式で記述する能力を身に付けている。</li> <li>・実在気体の挙動を三態変化の観点から説明し、理想気体との違いを的確に表現している。</li> <li>・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気体の性質に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	11月上旬 ～ 11月中旬
<b>第3節 固体の構造</b> ①化学結合と結晶の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学結合と物質の構造や性質との関係に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>・単位格子の一边の長さや構成粒子の半径の関係を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオン結晶、共有結合の結晶、分子結晶の性質と化学結合を関係づけて説明している。</li> <li>・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固体の構造に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	11月中旬 ～ 11月下旬
<b>第4節 溶液の性質</b> ①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶解のしくみについて、溶媒と溶質の組合せによって溶解のしやすさが異なることを粒子モデルと関連付けて理解している。</li> <li>・気体の溶解度について、ヘンリーの法則を理解している。</li> <li>・希薄溶液の性質について、溶媒との違いを理解している。</li> <li>・コロイド粒子とコロイド溶液に関する知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶解度の定義を正しく理解し、再結晶によって物質を精製できる原理を考察し、説明している。</li> <li>・凝固点降下と質量モル濃度との関係を見だし、説明している。</li> <li>・透析によってコロイド溶液を精製できる原理を考察し、説明している。</li> <li>・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶液の性質に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	12月 ～ 1月中旬
<b>第II章 物質の変化と平衡</b> 第1節 化学反応と熱・光 ①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則 ③結合エネルギー ④化学反応と光 ⑤エントロピー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応や状態変化が起こるとき、物質のもつエネルギーが変化することを理解している。</li> <li>・化学反応や状態変化に伴うエンタルピー変化を熱化学方程式を用いて表す方法を身に付けている。</li> <li>・ヘスの法則を理解し、いくつかの熱化学方程式から、新たな反応熱を求める知識を身に付けている。</li> <li>・化学反応には、反応前後における物質のもつ化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れる反応があることを理解している。</li> <li>・吸熱反応が自発的に進む要因として、エントロピーが増大する方向に反応が進むことを理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの熱化学方程式をもとに、新たな化学変化のエンタルピー変化を科学的に推定できる。</li> <li>・観察、実験を通して熱化学方程式の意義を理解し、ヘスの法則の成立を実証的、論理的に考察している。</li> <li>・反応熱の測定ができ、そのデータをグラフ化するなどの処理を行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応と熱・光に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>		1月下旬 ～ 3月

## 化学基礎b 年間指導計画(シラバス)

	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法	実施 予定 時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
第2章 物質の変化  第1節 物質量と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。</li> <li>物質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質量と質量、気体の体積との関係も理解する。</li> <li>物質量を介して、物質の質量や気体の体積を相互に変換できる。</li> <li>水溶液の濃度を、モル濃度を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質量を計算によって求めることができる。</li> <li>化学反応式を用いて化学変化を表すことができる。</li> <li>物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> <li>実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。</li> <li>化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	4 月 5 6 月
第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸化・還元の意味を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。</li> <li>酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。</li> <li>酸化還元反応の量的関係を理解している。</li> <li>金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。</li> <li>観察、実験を通して、酸化・還元の意味と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。</li> <li>酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	7 月 5 9 月
終章 化学が拓く世界 ・水道水について考えよう ・食品の保存について考えよう ・洗剤について考えよう ・リサイクルについて考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>「化学基礎」で学んだ事柄が、日常生活や社会を支える科学技術と結びついていることを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会でどのようにいかされているかを教科書の題材以外にも範囲を広げて考察することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会の中でどのようにいかされているかに注目し、意欲的に探究しようとする。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	1 0 月 上 旬

## 化学b 年間指導計画(シラバス)

	観点別評価規準			評価の観点 及び評価方法	実施 予定 時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度		
第II章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解 ①電池 ②電気分解 ③電気分解の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>電池が酸化還元反応を利用して、化学エネルギーを電気エネルギーに変換する装置であることを理解している。</li> <li>身近な電池のしくみについて、酸化還元反応と関連付けて理解している。</li> <li>電気分解におけるファラデーの法則を理解し、量的関係を扱う知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察、実験を通して、電池の構造、反応を理解し、それらをもとに事象・現象の中に共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察している。</li> <li>電池や電気分解の実験を行い、その説明を科学的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電池・電気分解に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	1 0 月 中 旬 ～ 1 1 月 中 旬
第3節 化学反応の速さ ①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	<ul style="list-style-type: none"> <li>反応速度の表し方を理解している。</li> <li>反応速度と、反応する物質の濃度や圧力、温度との関係を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>触媒が反応速度を変える原理を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反応条件が変化することによって、反応速度がどのように変化するかを考察し、説明している。</li> <li>触媒の働きを活性化エネルギーにもとづいて考察し、説明している。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応の速さに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	1 1 月 中 旬 ～ 1 1 月 下 旬
第4節 化学平衡 ①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>可逆反応と不可逆反応の違いを理解し、知識を身に付けている。</li> <li>平衡定数の意味を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>ルシャトリエの原理を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学平衡は、正反応の速さと逆反応の速さが等しくなった状態であることを考察している。</li> <li>各種の実験結果から、濃度、圧力、温度と平衡移動の方向を関連付けて考察している。</li> <li>平衡移動の方向と、濃度、圧力、温度との関係を調べる方法を示すことができる。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学平衡に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	1 2 月 上 旬
第5節 電離平衡 ①電離平衡と電離定数 ②電離定数とpH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ⑤溶解度積	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸・塩基の電離平衡における電離定数、電離度、イオン濃度の関係を理解し、知識を身に付けている。</li> <li>溶解度積を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験結果から、緩衝液とその作用を化学平衡と関連付けて考察している。</li> <li>観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電離平衡に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</li> <li>学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。</li> </ul>	授業態度 発問評価 ノート 定期考査	1 2 月 中 旬 ～ 3 月

## 2 年生理型 生物 シラバス

教科	理科	単位数	3	教科書(発行者)	高等学校 生物基礎 (数研出版), 生物 (数研出版)	
科目 目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
	(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようとする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
単元及び学習内容	知識・技能	観念的評価規準	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法	実施 予定 時期
【高等学校 生物基礎】 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。	遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 二次遷移が一次遷移に比べて速く進行する理由を考え、説明することができる。	植生と遷移に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	4 月	
第2節 植生の分布とバイオーム	世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 日本に分布するバイオームについて理解している。	地球の気温と降水量の上昇すると、バイオームの分布がどのように変化するかを推測することができる。 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。	植生の分布とバイオームに関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第3節 生態系と生物の多様性	生態系がどのように構成されているのかを理解している。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。	生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。	生態系と生物の多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第4節 生態系のバランスと保全	生態系がもつ復元力について理解している。 人間活動が生態系に及ぼす影響について知り、生態系の保全の重要性について理解している。	生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。	生態系のバランスと保全に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査	5 月	
【生物】 第4章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化	生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解している。 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解している。	学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。	生命の起源と生物の進化に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	6 月	
第2節 遺伝子の変化と多様性	生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解している。 突然変異が遺伝的な多様性をもたらすことを理解している。	遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子の変化による、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。	遺伝子の変化と多様性に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第3節 遺伝子の組み合わせの変化	有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化することを理解している。 減数分裂の過程で、染色体の乗換えにより遺伝子の組換えが起こることを理解している。 連鎖と組換えのしくみを理解している。 性染色体について理解している。	無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。 ショウジョウバエの交配実験の結果を示した資料に基づいて、遺伝子の組み合わせが変化した多様化していることを見いだすことができる。	遺伝子の組み合わせの変化に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第4節 進化のしくみ	自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度の変化することを理解している。 隔離を経て種分化が生じることを理解している。	異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれぬ理由を考え、説明することができる。 鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。	進化のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査	7 月	
第5節 生物の系統と進化	塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解している。 ドメイン、界、門などの分類群について理解している。	あるタンパク質のアミノ酸配列を複数種の生物で比較した資料に基づいて、アミノ酸配列の差異をもとに生物の系統が推定できることを見いだすことができる。	生物の系統と進化に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第6節 人類の系統と進化	人類の系統を理解している。 人類は直立二足歩行を行うという点で他の生物とは異なることを理解している。	7種属の霊長類について、雑種DNAの熱安定性に関するデータをもとに系統を推定し、さらに分岐年代を推定することができる。 直立二足歩行を行うことのデメリットについて考えたり調べたりしてまとめ、説明することができる。	人類の系統と進化に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 実演考査		
第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解している。 生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解している。	ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自のDNAをもっている理由を考え、説明することができる。 生体膜において、リン脂質分子がどのように配置されているかを、リン脂質分子の構造をもとに考えることができる。	生体物質と細胞に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	9 月	
第2節 タンパク質の構造と性質	細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解している。 タンパク質の構造と機能との関係について理解している。	タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。	タンパク質の構造と性質に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第3節 化学反応にかかわるタンパク質	酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解している。 酵素反応を調節するしくみについて理解している。	酵素の活性を阻害する薬について、文庫やインターネットを用いて調べることができる。	化学反応にかかわるタンパク質に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査		
第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解している。 情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解している。	膜崩壊の原因を、腎臓の細胞におけるプロトンポンプの存在と関連づけ考え、説明することができる。また、膜崩壊の治療法について考え、説明することができる。 情報伝達物質を介した細胞間の情報伝達うまくいかない場合の原因について、これまでに学習した生命現象を例にあげて説明することができる。	膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	1 0 月	
第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解している。	生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。	代謝とエネルギーに関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	1 月	
第2節 呼吸と発酵	呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解している。 発酵では酸素を用いず有機物が分解され、ATPが合成されることを理解している。	呼吸と発酵では、グルコース1分子から得られるATP量に大きな違いがある理由を説明することができる。	呼吸と発酵に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題		
第3節 光合成	光合成では、光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解している。	光リ酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明することができる。 光合成において、葉緑体のチラコイド内外のH <sup>+</sup> の濃度差と、ATP合成速度の関係を探るのに必要な実験を考え、説明することができる。 ATP合成酵素の基本構造が原核生物や真核生物の間で共通している理由について、進化的観点から仮説を立て、説明することができる。	光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査		
第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製	DNAの複製のしくみを理解している。	DNAの複製に関する資料に基づいて、DNAの複製のしくみを見いだすことができる。 岡崎フラグメントの存在を示唆する実験データに基づいて、岡崎フラグメントが存在することを論理的に説明することができる。	DNAの構造と複製に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	1 2 月	
第2節 遺伝情報の発現	遺伝情報の発現のしくみを理解している。	真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を示した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 DNAの塩基では、ウラシルではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。	遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査		
第3節 遺伝子の発現調節	遺伝子の発現が調節されていることを理解している。 原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解している。	遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。 ラクトースオペロンに突然変異が生じた2種類の突然変異株に野生株のDNAを導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株についてDNAのどの領域に異常があったのかを推定することができる。	遺伝子の発現調節に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 実演考査		
第4節 発生と遺伝子発現	発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解している。	同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する原因として、細胞質に含まれる物質が不均等に分配されることが、周囲の細胞からの誘導があることを理解し、説明することができる。	発生と遺伝子発現に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題	2 月	
第5節 遺伝子を扱う技術	遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解している。	遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 mRNAワクチンと従来のワクチンを比較し、mRNAワクチンの利点や問題点について考え、説明することができる。	遺伝子を扱う技術に関心をもち、主体的に学習に取り組む。	授業プリント 観察 課題 定期考査	3 月	

## 第2学年 保健体育科 科目「体育」 シラバス

### 科目の目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、その技能を身に付けるようにする。
- (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

内容のまとめ	単元((ア)(イ)レベル)又は小単元((ア)(イ)レベル)	配当時間	評価の観点			観点別評価規準	評価方法	実施予定
			知	思	態			
O T	オリエンテーション 旭野体操 体づくり運動	4	○		◎	主 ・仲間と課題を伝え合うなど、互いに助け合おうとしている。	・観察	4月
	I 期	選択領域Ⅰ 球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。  ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。  ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		6月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		
体育理論 スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術		2	◎			知 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解している。	・学習カード ・観察	7月
II 期	領域選択Ⅱ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。  ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。  ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード	9月
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		10月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		
	体育理論 スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	2		◎		思 運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること。また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があることを理解している。	・学習カード ・観察	11月
III 期	領域選択Ⅲ 柔道、球技Ⅰ、球技Ⅱ、球技Ⅲ、ダンスより1領域選択 ただし、球技Ⅰあるいは球技Ⅱからの選択は2つまでとする。	20	◎	○	○	知 ・柔道では相手の動きの変化に応じやすい自然体で組もうとしている。 ・相手の投げ技に応じて受け身をとることができる。  ・球技では各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出す動きによって攻防を展開している。 ・役割に応じたボール操作や安定した道具の操作を実践することができる。  ・試合や競技会の運営方法を理解している。	・観察 ・スキルテスト ・学習カード	12月
						思 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善点を理由とともに他者に伝えることができる。		1月
						主 ・自主的に学習に取り組もうとしている。 ・仲間に助言したりして、互いに助け合い、教え合おうとしている。		2月
	体育理論 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	2			◎	主 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。	・学習カード ・観察	3月

## 第2学年 保健体育科 科目「保健」 シラバス

**科目の目標**

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元	小単元	配当時間	評価の観点			観点別評価規準	評価方法	実施予定
			知	思	態			
生涯を通じる健康	1, ライフステージと健康	1	◎		○	知 思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解している。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	4月
	2, 思春期と健康	1		◎	○			
	3, 性意識と性行動の選択	1	◎					
	4, 妊娠・出産と健康①	1		◎	○	知 中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解している。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	5月
	4, 妊娠・出産と健康②	1	◎		○			
	5, 避妊法と人工妊娠中絶①	1			◎			
	5, 避妊法と人工妊娠中絶②	1	◎			思 現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見しようとしている。 国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理し、他者に伝えようとしている。 喫煙、飲酒、薬物乱用防止について、我が国のこれまでの取り組みを個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止を評価している。 現代社会における自他の健康の維持向上へ向けて、多角的なものの見方から考察を深め、他者に意見を伝えることができる。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	6・7月
	5, 避妊法と人工妊娠中絶③	1		◎	○			
	6, 結婚生活と健康①	1		○	◎			
	6, 結婚生活と健康②	1	○		◎	主 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくり、明るく豊かで活力ある生活を目指し保健の学習に主体的に取り組んでいる。 自他の健康課題の解決へ向けて、主体的に学習方法を調整し、取り組んでいる。 自己の学習の過程を見直しながら、適切な学び方を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	9月
7, 中高年黄と健康①	1	○		◎				
7, 中高年黄と健康②	1		◎					
8, 働くことと健康①	1	◎			主 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくり、明るく豊かで活力ある生活を目指し保健の学習に主体的に取り組んでいる。 自他の健康課題の解決へ向けて、主体的に学習方法を調整し、取り組んでいる。 自己の学習の過程を見直しながら、適切な学び方を調整し、粘り強く学習に取り組んでいる。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	10月	
8, 働くことと健康②	1	◎		○				
9, 労働災害と健康①	1		◎	○				
9, 労働災害と健康②	1	◎						
10, 健康的な職業生活	1		◎					
健康を支える環境づくり	1, 大気汚染と健康①	1			◎	知 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解している。	・観察 ・ノート ・ワークシート	11月
	1, 大気汚染と健康②	1		◎				
	2, 水質汚濁、土壌汚染と健康①	1	○		◎			
	2, 水質汚濁、土壌汚染と健康②	1		◎		知 人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて理解している。 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解している。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	12月
	3, 環境と健康にかかわる対策①	1			◎			
	3, 環境と健康にかかわる対策②	1	◎	○				
	4, ごみの処理と上下水道の整備	1			◎	思 健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見し、他者に伝えることができる。 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて、他者に伝えることができる。	・観察 ・ノート ・ワークシート ・ペーパーテスト	1月
	5, 食品の安全性	1		◎	○			
	6, 食品衛生にかかわる活動	1	◎					
	7, 保健サービスとその活用	1		◎	○	主 健康を支える環境づくりの学習に主体的に取り組んでいる。 ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ主体的に取り組んでいる。	・観察 ・ノート ・ワークシート	2・3月
	8, 医療サービスとその活用①	1		◎	○			
8, 医療サービスとその活用②	1	◎						
9, 医薬品の制度とその活用	1		○	◎				
10, さまざまな保健活動や社会的対策	1	◎		○				
11, 健康に関する環境づくりと社会参加	1	○		◎				

## 芸術 音楽 I シラバス

教科	科目	学年	単位数	教科書	発行者
芸術	音楽 I	2	2	MOUSA1	教育芸術社

<b>科目の目標</b>	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質、能力を次の通り育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的、歴史的背景などと関わり、及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2)自己のイメージをもって音楽的表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら、良さや楽しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(3)主体的、協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
--------------	---

単元及び学習内容	観点別評価規準			評価の観点及び評価方法	実施予定時期
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう  リズム打ちをしてみよう	・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けようとしている。 ・音符の長さを理解し、拍子にふさわしいリズムを身に付けようとしている。	・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を創意工夫しようとしている。 ・拍子に合った奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫しようとしている。	・ひとりひとりが主体性を発揮しながら、曲にふさわしい歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ・ひとりひとりが主体性を発揮しながら、リズムの学習活動に取り組もうとしている。	・行動観察 ・実技テスト	4月上旬 ～ 5月中旬
表現を工夫してギターを演奏しよう  コードネームを理解しよう	・ギターの奏法を身につけるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関りを理解し、表現に必要な技能を身に付けようとしている。 ・基本的なコードネームについて理解している。	・曲想とギターの音色や奏法との関りを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏している。 ・コードネームの構成音とともに、メロディーとの関係を考えながらコード進行について理解している。	・ひとりひとりが主体性を発揮しながら、他者との調和を意識してギターの演奏活動に取り組もうとしている。	・行動観察 ・実技テスト	5月下旬 ～ 7月下旬
ミュージカルを鑑賞してミュージカルナンバーを歌おう	・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付けている。	・歌ったり、互いに聴き合ったり、意見を交換したりしながら曲想と音楽の構造や、歌詞との関りを理解し、イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫しようとしている。	ひとりひとりが主体性を発揮しながら、歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・行動観察 ・実技テスト	9月上旬 ～ 10月中旬
表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	・リコーダーの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関りを理解し、表現に必要な技能を身に付けようとしている。	・曲想とリコーダーの音色や奏法との関りを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して演奏している。	ひとりひとりが主体性を発揮しながら、他者との調和を意識してリコーダーの演奏活動に取り組もうとしている。	・行動観察 ・実技テスト	10月下旬 ～ 11月下旬
自分達で選曲して演奏を発表しよう	・歌唱、器楽、創作等の自己選択したジャンルで創意工夫をした音楽表現をするために、必要な技能を身に付けて演奏しようとしている。	・限られた時間の中で、自己選択したジャンルと他者とのイメージの融合を考えながら表現を工夫し、計画的に練習を進めている。	自己選択した楽曲について、他者との調和を意識して、主体的に練習に取り組もうとしている。	・行動観察 ・レポート ・実技テスト	12月上旬 ～ 3月下旬

・1学期と2学期の単元及び学習内容の実施予定時期は、上記のように時期で区切るような展開ではなく、ほぼすべての学習内容を同時に展開していくものである。

# 美術1 シラバス

教科・科目	単位	学年	教科書	発行者
芸術・美術1	2	2	光村 美術1	光村図書

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

単元及び学習内容	観点別評価基準			評価の観点及び評価方法	実施予定時期
	知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
イメージを表現する平面構成	モチーフを観察し描写できているか 丁寧な仕上げがおこなえているか	イメージを伝えることに適したモチーフ選びと色彩設計が行えているか	授業中に制作に集中できているか 練習用の小作品を通して本制作に必要な見識が得られたか	練習用の小作品のチェック 作品提出	1学期
風景画	正確な描写と質感の描き分けができているか	陰影を観察し色彩の変化を表現できているか 選択した描く風景の表現したいポイント、描きたいものを明確にし実現できているか	授業中に制作に集中できているか 練習用の小作品を通して本制作に必要な見識が得られたか	練習用の小作品のチェック 作品提出	2学期
絵画と商品を組み合わせた商品広告デザイン	絵画の模写を正確に行えているか 選択した商品を丁寧に描写出来ているか	広告デザイン全体で対比表現を行えているか 商品を際立たせる色彩設計や描写の工夫が出来ているか	授業中に制作に集中できているか	作品提出	3学期
自分が注目した美術作家についてのレポート			様式を守り、期限内に提出できたか 観察した作品から受けた印象や感慨を自分の感性を通じて言語化できたか	レポート提出	通年課題

学習方法	よく観察し、必要な技術や方法を把握し、自身の制作に於いて実践する。 授業での制作時に漠然とアドバイスを求めても良いが、自分がやってみたい方向性や表現を言語化して質問できると尚良い。
------	---

令和6年度 英語コミュニケーションII シラバス

科目	単位数	学年・類型	使用教材名		発行者
EC II	3	2年全員	教科書	Heartening EC II	桐原書店
			副教材	Heartening 学習ノート Heartening Advanced Exercises システム英単語	桐原書店 桐原書店 駿台文庫

1 観点別評価規準と目標

	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学年ごとのCAN-DOリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。</li> <li>・日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを聞いて、要点や詳細をとらえることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを速読して、概要をとらえることができる。</li> <li>・日常的な話題についての説明文や意見文および社会的な話題についての説明文や意見文などを精読して、要点や詳細をとらえることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。</li> </ul>
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な話題についてのわかりやすい会話や、説明および討論などを聞いて、目的に応じて概要や要点や詳細を理解することができる。</li> <li>・日常的な案内、指示、放送などを聞いて、課題解決のために必要な情報を聞き取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な話題についてのわかりやすい会話や、説明および討論などを聞いて、目的に応じて概要や要点や詳細を理解することができる。</li> <li>・日常的な案内、指示、放送などを聞いて、課題解決のために必要な情報を聞き取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心のある日常的な話題に関して、相手の発言に回答しながら詳しい内容を伝え、会話を続けることができる。</li> <li>・興味や関心のある日常的な話題に関して、相手の発言に回答しながら詳しい内容を伝え、会話を続けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題に関する経験や描写を、考えや気持ちを交えながら、話を整理して詳しく伝えることができる。</li> <li>・日常的な話題および社会的な話題に関する情報に基づいた詳しい説明を、相手の理解に配慮しながら、わかりやすく伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な話題に関する経験や描写を、考えや気持ちを交えながら、話を整理して複数段落で詳しく書くことができる。</li> <li>・社会的な話題に関して、相手にわかりやすいように考えを整理して、意見を複数段落で展開して詳しく書くことができる。</li> </ul>

2 学習方法

(1) 予習

- ・各レッスンの前に『学習ノート』に取り組む
- ・システム英単語小テストの学習をする

(2) 授業

- ・毎授業の初めに、システム英単語小テスト行う
- ・ハンドアウトを使って学習する
- ・各レッスンの終わりに、Activity Plusに取り組む

(3) 復習

- ・ハンドアウトを使って、授業内容を確認する
- ・『Advanced Exercises』を使って、問題を解く

### 3 学習内容と評価方法

単元及び学習内容	配当時間	内容のまとめ					観点別評価規準	評価方法										実施予定時期	
		聞くこと	読むこと	話・やり取り	話・発表	書くこと		活動の観察	ワークシート・ノート等	インタビュート	インディペンデントセッション	ディスカッション	プレゼン	スピーチ	ライティング	実技テスト	右記以外の振り出しシート		定期考査
Lesson 1 - Laughter without Borders 【単元の目標】 海外で狂言を広めている、チェコ出身のオンジェイ・ヒーブル氏へのインタビューを読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	14	知	○	○		○	・未来を表す表現(未来進行形/be to do), 時制の一致の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○	○	○	・日本文化を広める外国人の活動について、情報を整理し、クラスで報告しようとしている。	○					○	○				○	
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 2 - The Ongoing Voyages of Curry 【単元の目標】 インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読む。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	2	知	○	○		○	・未来完了形、前置詞の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○			・カレーの歴史に関する記事を読んで、要点や詳細を理解している。	○										○	
		態			○		・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 3 - The World's Most Bicycle-friendly City 【単元の目標】 コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市になったかについての説明文を読む。環境の保全に寄与する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	14	知	○	○		○	・助動詞+have+過去分詞、助動詞に関連する表現の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○	○	○	・コペンハーゲンの自転車政策に関する記事を読んで、要点や詳細を整理してわかりやすく伝えている。	○					○	○	○				○
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 4 - Can You Feel Emotions in Text? 【単元の目標】 国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、他国を尊重し、国際社会の発展に寄与する態度を養う。	2	知	○	○		○	・さまざまな動名詞、動名詞を使った表現の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○			・絵文字の解釈についての論証文を読んで、要点や詳細を理解している。	○					○	○	○				○
		態			○		・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 5 - Background Music and Sharks 【単元の目標】 サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養う。	16	知	○	○		○	・さまざまな不定詞の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○	○	○	・BGMがサメの印象に与える影響について、要点や根拠を整理してわかりやすく伝えている。	○	○				○	○					○
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 6 - The Benefits of Play 【単元の目標】 遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読む。個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	2	知	○	○		○	・SVOOの受動態の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○			・遊びの利点についての説明文を読んで、要点や詳細な情報を理解している。	○					○	○					○
		態			○		・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 7 - Nursing in a War Zone 【単元の目標】 国境なき医師団の看護師、白川優子氏の活動についての物語文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。	16	知	○	○		○	・さまざまな分詞構文、独立分詞構文/付帯状況を表す(with+名詞+分詞)の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○	○	○	・白川さんの仕事について、要点を整理してわかりやすく伝えている。	○					○	○	○				○
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 8 - Hawaii's Debate about a Sacred Mountain 【単元の目標】 神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読む。伝統と文化を尊重する態度や、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	2	知	○	○		○	・比較に関する表現、従属接続詞の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○			・TMT建設賛成派と反対派の意見を読んで、要点や書き手の意図を理解している。	○					○	○	○				○
		態			○		・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 9 - The Next Wave in Artificial Intelligence 【単元の目標】 人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読む。主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。	16	知	○	○		○	・関係代名詞と前置詞/関係副詞の非制限用法、複合関係詞の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○	○	○	・ロボットとの共生について、要点を整理して説明している。	○	○				○	○					○
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Lesson 10 - What If There Were No Moon? 【単元の目標】 月が地球に及ぼしている影響についての説明文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。	2	知	○	○		○	・仮定法を使った表現、無生物主語の特徴やきまりを理解している。												○
		思		○			・月についての講義を読んで、要点や詳細を理解している。	○					○	○					○
		態			○		・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○
Extra Activities 【単元の目標】 ・かるたゲームを通して、ことわざについて学ぶ。	11	知	○	○		○	・文法を理解し、正しい英文を書くことができる。												○
		思		○	○	○	・読み取った内容に基づき、ことわざについて表現している。	○					○	○					○
		態			○	○	・発表後、自己の発表を振り返り、改善点を見つけるなどして、自らの学習を自覚的に捉えようとしている。	○	○										○

令和6年度 論理・表現Ⅱ シラバス

科目	単位数	学年・類型	教科書名	発行者
論理・表現Ⅱ	2	2年全員	Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace	啓林館
			Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace WORKBOOK	啓林館
			Vision Quest 総合英語 Ultimate 2nd	

1 観点別評価規準と目標

	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学年ごとの CAN- DOリスト	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いながら、意見や主張を論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができる。	日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いながら、意見や主張を論理の構成や展開を工夫して伝えることができる。	日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを、多様な表現を用いながら、英文の構成や展開を意識して書いて伝えることができる。
科目の目標	ア 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、使用する語句や文、対話の展開などを工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。 イ 一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。	ア 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、使用する語句や文、対話の展開などを工夫して話して伝えることができるようにする。 イ 一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。	ア 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、書いて伝えることができるようにする。 イ 一定の支援を活用すれば、意見や主張などを、論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で書いて伝えることができるようにする。

2 学習内容

Vision Quest

- ・ 文法機能を生かして、トピックに関する話題や自分の考えを話したり書いたりしよう。
- ・ 論理の構成や展開を工夫して、ペアやグループでやりとりしよう。

Vision Quest WORKBOOK

- ・ 授業で習った範囲の問題はすぐに解き、復習しよう。繰り返し解き、様々な表現の定着を図ろう。
- ・ 発展問題にもチャレンジしよう。その際には、参考書「Ultimate 総合英語」を積極的に活用しよう。

学習内容・観点別評価基準・評価方法

単元及び学習内容	配当時間	評価の観点	内容のまとめ				観点別評価基準	評価方法										実施予定時期			
			聞くこと	読むこと	話・やり取り	書くこと		活動の観察	ワークシート・ノート等	インタビューテスト	インタビュー	ディベート	プレゼンテーション	ライティング	スピーチ	実技テスト	左記以外の振り返りシート		定期考査		
Lesson 1 What is your future goal? [話題] 子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。[言語]主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。[表現]文と文のつながりを意識して書いて伝える。	4	知				前置詞句・動名詞・不定詞などを用いた主語にして、英文を書いたり話したりすることができる。														4 月上 中旬	
		思	○				目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 2 What school events do you have? [話題]学校で新しい友達を作る方法について書かれた文章を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。[言語]自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。[表現]パラグラフの構成を意識して詳しく書いて伝える。	4	知				自動詞と他動詞の違いを理解し、適切に選択して、英文を書いたり話したりすることができる。		○												4 月下 旬	
		思	○				目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 3 Who is the best athlete? [話題]スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。[言語]現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構成を用いる。[表現]パラグラフの構成を意識して詳しく書いて伝える。	4	知				現在・過去・未来を表す表現について、適切な動詞の形を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○		○										5 月上 中旬	
		思	○				目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 4 Is social media safe? [話題]ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、助動詞の概念と文の構造を理解する。[言語]義務・必要・推量などを表す助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。[表現]パラグラフの構成を意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。	5	知				義務・必要・推量を表すために、適切な助動詞を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												5 月下 旬	
		思	○				場面、状況などに応じて、興味や関心のあることについて、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 5 How does overusing energy affect us? [話題]エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。[言語]形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。[表現]パラグラフの構成を意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。	5	知				形容詞・分詞・前置詞句・不定詞(形容詞用法)を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												6 月上 旬	
		思	○				場面、状況などに応じて、将来や進路について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 6 What are some culture differences? [話題]異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解する。[言語]関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解し、文を組み立てる。[表現]自身の主張や理由の根拠を示して、詳しく書いて伝える。	5	知				関係詞を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												6 月下 旬	
		思	○				場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English? [話題]第二言語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。[言語]不定詞による修飾(副詞的用法)や分詞構文を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。[表現]文章全体の概要と構成を理解し、まとめる。	6	知				不定詞による修飾(副詞的用法)や分詞構文を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												7 月・ 9月	
		思	○				場面、状況などに応じて、日常的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 8 Is Japan open enough? [話題]日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解する。[言語]相手に情報を伝えるために、直接話法、間接話法、また様々な伝達表現を用いて適切な文の形や構造を組み立てる。[表現]プレゼンテーションを聞いて、全体の概要と構成を理解し、まとめる。	5	知				直接話法や間接話法を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												1 0月	
		思	○				場面、状況などに応じて、スポーツについて、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 9 What if you were rich? [話題]もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解する。[言語]条件や仮定を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。[表現]自分の考えや主張をまとめたり、クラスメートと話し合ったりして、スピーチの原稿を作成する。	6	知				仮定法を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												1 1月	
		思	○				場面、状況などに応じて、社会的な話題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 10 How might AI affect our lives? [話題]AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解する。[言語]可算名詞と不可算名詞の使い分けや数量を表す表現を理解し、文を組み立てる。[表現]自分の考えやその根拠を示す情報を調べるなどして、プレゼンテーションの原稿を作成する。	7	知				数量を表す表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												1 2月	
		思	○				場面、状況などに応じて、文化について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 11 What is a healthy life? [話題]健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解する。[言語]原級比較、比較級、最上級を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。[表現]ある議題について、賛否の意見を考え、詳しく書いてまとめる。	6	知				比較表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												1 月	
		思	○				場面、状況などに応じて、国際問題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														
Lesson 12 What is important when we sell chocolate? [話題]商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解する。[言語]否定を含む語や部分否定、準否定などの否定を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。[表現]自分の意見や主張を考え、根拠となる資料を示しながら、グループで話し合ったり、	6	知				否定を表す表現を用いて、英文を書いたり話したりすることができる。		○												2 ・3月	
		思	○				場面、状況などに応じて、社会的な問題について、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	○													
		態			○		外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考え、気持ちなどを話したり書いたりして表現しようとしている。														

令和6年度 「総合的な探究の時間」

教科科目	単位	学年・類型	教材	
総合的な探究の時間	1	第2学年	ワークシート、新書、新聞記事、インターネットなど	
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己への理解を深め、人としての在り方生き方について考えるとともに、自らの将来の姿や社会における役割を意識できるようキャリアプランニング能力を高める。</li> <li>職業を理解し、自己の進路について考えるとともに、現在の高校生活と関連付けて主体的に探究活動に取り組み、生涯にわたって学び続ける態度を養う。</li> <li>現代社会の動きや他者からの情報を意欲的に収集するとともに、自らの考えをまとめ、積極的に表現する態度や能力を培う。</li> </ul>			
時間	内容	配当時間	学習方法	評価の観点と評価方法
1 2	クレペリン検査 オリエンテーション	1 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年の「総合的な探究の時間」の目的及びねらいを聞き、各自の目標・到達点を設定する。</li> <li>ビデオ、朗読CD等で平和に対する意識を高める。</li> <li>いくつかのテーマを提示し、グループごとに調べたいことを決める。</li> <li>文献やインターネット、新聞等で調査する。</li> <li>調査したことをまとめ、グループごとに発表する。</li> <li>外部講師の講話を聞き、職業選択について学ぶ。</li> <li>大学から講師を招き、大学の講義を受講する。</li> <li>講義の内容について振り返る。</li> <li>大学模擬講義での経験等を踏まえて、自身が興味を持ち、探究する学問のテーマを決める。</li> <li>決めたテーマについて文献やインターネット、新聞等で調査、研究をする。</li> </ul>	<評価の観点>
3～11	平和学習	9		○自己理解力
12 13～15	キャリアガイダンス 大学模擬講義	1 3		○キャリアプランニング能力
16～25	学問探究	10		○主体的な学習態度
26～27	大学・職業調べ①	2		○社会への関心・社会人基礎力
28 29～31	選挙権講話 大学・職業調べ②	1 3		<評価の方法>
32～34	学問探究まとめ	3		○活動記録
35	1年の振り返り	1		○行動観察
				○発表内容
				○レポート内容
年間授業時間		35		

